

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(保健体
育) / 松井 敦典

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

①授業内容: 高度専門職業人たる教員にふさわしい専門性を、知的理解および実践力の両面から涵養できるよう、授業内容に反映させ充実させていく。
②授業方法: 講義においては予習復習を促す課題を設定し、授業中も発言や討論を促進するスタイルで行う。実技においては達成課題とそれに至るための手順について、ここの実状に合わせて提示し、理解と実感を伴った課題習得を目指す。
③成績評価: 各授業で設定する最低限の課題を達成させると同時に、学習者自らの工夫や努力を適切に評価するための評価方法を開発し、適用する。

2. 点検・評価

①授業内容: 受講生の理解度を押し量りながら、座学では具体的な指導場면을題材に授業をすすめた。実技においてはその内容の意義や必要性について理解を深めながら技能の習得を目指した。体育指導者としての資質涵養に一定量寄与できた。
②授業方法: 場面によって課題を与え、自己の成果をプレゼンする形式を採用した。自ら調べ、学び、それを丁寧に説明するサイクルは、体育指導や研究に役立つと思われる。
③成績評価: プレゼンの出来映えを相互評価する手法を試験的に導入したが、定まった方法を定着させるに至っていない。今後もその方法を模索していく予定。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

体育科・保健体育科の教科専門を指導する立場から、教員として必要な教科の力を確実に身につけるよう指導方法を精査する。そのなかで学生が本学の持つ教育資源を活用できるよう、学生の環境整備・構築を促し、それを有効利用できるよう指導する。学生の活動エリアにおけるIT環境、学生の情報リテラシー、研究室や教育コースとしての支援体制等に留意しながら、学生に教員としての力が涵養できるよう、支援する。

2. 点検・評価

授業を受講する学生に対しては、課題の問題設定や成果のプレゼンについて、IT機器やネットワークの活用が活かされる内容や方法を示した。また、授業中にも授業内容に関連してどのように教育機器やネットワーク活用するかを示す具体例を挙げて、理解を促すよう努力した。このような経験を積み重ねることにより、教員や体育指導者としての具体的な実践力が身についていくこと、また、このような方法を躊躇無く積極的に採用する教員に育っていくことを願っている。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

本年度は科研費等外部予算の獲得が残念ながら叶わなかったが、継続して学校水泳・水泳教育の適切な実践を目指した研究をすすめる。第13回学校水泳研究会を6月に開催し、新指導要領に則した基礎水泳教育の実践報告を実施するとともに、具体的な指導例について提案・実証していく。溺水予防・災害対策としての水泳教育は、本学がすすめる予防教育の概念とも一部重なるので、それに関する実践例も模索していきたい。

従来から取り組んできた、日本スポーツ科学センターや徳島県体育協会との連携をさらに押し進め、競技スポーツの技術分析の方法とその実践例を増やし、競技力向上のための支援方法として確立させる。

2. 点検・評価

第13回学校水泳研究会を6月8日に開催し、最近の水泳授業研究の成果や安全水泳教育の展望について議論した。(教育医事新聞・2013年8月25日・第7面にて紹介された)

京都市立養徳小学校溺水事故第三者調査委員会の委員に任命され、学校水泳における指導内容・方法や安全確保のあり方について、多くの情報収集が実現でき、またそれが継続中である。この委員に関わったことが、私の専門分野における知見をさらに深め、これからの研究活動の方向性を再確認するに至っている。

国民体育大会徳島県選手団本部役員に任命され、各種目の競技における資料収集を実施した。各競技の強化におけるスポーツ科学の導入に向けて、体制を整えている。

研究を進めるため、外部資金の獲得を図り、科学研究補助金(総合B)、日本教育大学協会研究助成、笹川スポーツ研究助成に応募したが、いずれも配分獲得には至らなかった。今後の採択を目指して、申請の内容方法を再検討したい。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

保健体育コースの教官定員の削減に対応するため、少人数でも機能できるコース運営システム作りのために協力する。従来から行って来た授業や講座業務のICT化をさらに押し進め、事務手続等の簡素化とコースの情報発信に貢献する。各種委員等、与えられた任務及び責務を全うする。本年度より大学院入試委員に任命されたので、コースへの受験生の勧誘をすすめることはもちろん、入試委員としての大学院広報活動に協力する。プール、艇庫周辺、トレーニング室を中心に、体育施設の保守・点検に協力する。学生生活支援チーム等事務組織と連携しながら、授業や課外活動等が円滑に行われる環境整備に留意する。鳴門渦潮高等学校との高大連携推進委員として、高大連携事業の計画立案および実行に携わるとともに、出張授業担当者として高校授業を実施する。

2. 点検・評価

無線LANシステムである「konami」のビル間通信について、コース内教員の支援により修繕予算を整備し、不具合を解消するための修繕を実施した。一部完治しない部分もあるが、相応の改善が見られた。これからも適切な維持管理が必要と思われる。課外活動には、学生らに競技に関わる公的な資格(水泳競技役員、公認審判員、公認指導員)等の取得を勧め、講習会受講と申請手続により取得に至っている。財務課と連携により、平成25年度の大学教育研究基盤強化促進費の要望調書等を作成し提出した。プールに上屋を増設し、施設の改善とそれに伴う諸プログラムの改善により教員養成の機能強化を図るものである。配分が認められることを願っている。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

附属学校における教育支援(授業補助、LFT担当等)、教育アドバイザー、徳島市学校体育活性化校内研修助成事業、徳島県文化スポーツ立県局県民スポーツ課、徳島県教育委員会体育健康安全課、徳島県体育協会(スポーツ医科学委員会、競技力向上委員会、および各種セミナー)、徳島県水泳連盟等、関係する各組織と連携し、社会貢献できる各種行事に積極的に参加する。またそのことにより、鳴門教育大学をアピールする。その際に本学大学院の紹介を実施し、受験生の確保と入学者の増員を図る。

2. 点検・評価

中間報告
教育アドバイザー5件、徳島市学校体育活性化校内研修助成事業1件、徳島県体育協会関連事業8件、徳島・四国水泳連盟関連事業17件、県教育委員会関連事業3件、京都市第三者事故調査委員会関連26件、徳島県体育協会 関連事業8件、鳴門市スポーツ推進審議会関連事業3件、その他公的組織関連6件に関与し、社会貢献に務めている。特に、競技力向上スポーツ指定校ステップアップ事業指定校選考委員会(徳島県教育委員会)では委員長に、鳴門市スポーツ推進審議会(鳴門市教育委員会)では会長に選任され、それぞれの長として組織の目的を全うすべく、運営にあたっている。私自身の体育人、水泳人としての専門性が、地域社会に寄与できるよう、積極的に関わっているつもりである。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

京都市教育委員会から任命された養徳小学校プール事故第三者調査委員会においては、学校水泳の専門家としての立場から、指導者の果たすべき安全注意義務を中心に事故発生の機序や今後の防止策について担当し、調査報告を作成中である。このことは、私の本学における水泳教育担当としての職務と大いに関わり、教員養成における未来の水泳指導者への教育内容とその方法を再構築するための貴重な情報源となっている。

また、日本水泳連盟・徳島県水泳連盟との関わりや、小学校体育連盟(県・郡市)からの水泳指導に関わる学識経験者としての指導助言等、鳴門市・徳島市・松茂町からの水泳指導者研修・実技指導・安全管理監視活動等、水泳・水辺活動の専門家としての社会貢献は、私自身の研鑽にもなっている。

今後も水泳関連授業の充実、学校水泳研究会開催をはじめ、水泳教育に関わる一切の事項を積極的に押し進め、本学が学校水泳の拠点として認められるように努力していきたい。